



中央会事業より

秋田県へ要望書を提出 ～秋田県官公需受注対策協議会との連名で計7項目を要望～

11月26日(木)、本会の伊藤邦夫専務理事並びに秋田県官公需受注対策協議会の加藤憲成会長、大門一平副会長が秋田県庁を訪れ、石黒互建設部長、天利和紀総務部長、金田早苗出納局長、佐々木定男産業労働部長に対しそれぞれ要望書を手渡し、以下の7項目の要望を行いました。



[要望の様子]

秋田県への要望は、本会の理事会や地区別組合代表者懇談会、官公需受注対策懇談会での討議を経て、本会と秋田県官公需受注対策協議会との連名による要望活動として行っているもので、毎年、秋田県からは要望に対し前向きな回答を頂いています。

要望にあたり、本会伊藤専務理事より要望内容の骨子を説明した上で、「官公需の地元発注については、秋田県には十分配慮頂いており感謝している。今後は市町村への働きかけを強化して頂きたく、特に協働政策会議の場を通じて首長に伝えてほしい。」と要望しました。

一方、秋田県からは、「中小企業振興条例が施行され、中小企業振興のための地元発注についても十分意識して行っている。『あきた未来総合戦略』も策定されたため、今後も官公需施策の一層の普及・浸透に務めていきたい。」等といった前向きな回答を頂きました。



[石黒建設部長へ要望]



[天利総務部長へ要望]



[金田出納局長へ要望]



[佐々木産業労働部長へ要望]

—秋田県への要望の概要—

- 1 高速道路ネットワークの早期完成並びに秋田港の整備促進について
- 2 地元中小企業・小規模事業者への優先発注と官公需適格組合の活用について
- 3 公共工事における発注時期の平準化及び適正価格による発注等について
- 4 運送業務に関する官公需の発注について
- 5 物品購入、印刷物等の最低制限価格制度の導入拡大について
- 6 リフォーム事業者団体登録制度の創設について
- 7 県道に設置されている道路街路灯のLED化について

「新ものづくり・新サービス展」を開催

～ものづくり中小企業・小規模事業者の競争力強化を支援～

ものづくり補助金の秋田県地域事務局を務める本会では、11月27日(金)、秋田市の「秋田拠点センターアルヴェ」(秋田市)において、本事業の成果を展示・発表することで県内企業の事業化促進を目的とした「新ものづくり・新サービス展」を総勢24事業所の出展により開催し、延べ300人が来場しました。

開催にあたり、本会藤澤正義会長より「本事業を活用して開発した新製品やサービス、技術等が一堂に会し展示・発表を行うことにより、本県事業者における競争力の強化に繋がりたい。」と今後の事業展開に期待する旨の挨拶が行われ、続いて、株式会社IMI(大仙市)、株式会社アスター(横手市)、株式会社木彩屋(湯沢市)、株式会社三井光機製作所(秋田市)の4社より、本事業の活用による販路拡大等に関する成果発表が行われました。



[挨拶をする本会藤澤会長]

また、株式会社中野鉄工所代表取締役社長の
中野隆次氏(大阪府)を講師に、『町工場の底力
～ない知恵も使えば出てくる～』と題して基調
講演が行われ、企業や支援機関等から約100名
が聴講しました。

中野社長からは、自身の苦労話を交えなが
ら、自転車部品を製造する町工場において自転
車の販売台数が減少する中で付加価値の高い
商品開発に取り組んだ結果、販売数量は減少し
ても売上を確保している事例が紹介される等、
本県事業者の新たな事業展開に向け、参考とな
る基調講演となりました。



〔展示会場の様子〕

「首都圏駅ナカ テスト販売」を実施

～首都圏で「売る力」の向上を！県内13の食料品関連事業者が出店～



〔テスト販売の様子〕

本会では、12月4日(金)～13日(日)までの10日間、東京都「汐留シオサイト」において「首都圏駅ナカ テスト販売」を実施しました。

本県には、豊富な農林水産資源を活用した優れた商品が数多く存在しますが、人口減や高齢化、少子化等により市場が縮小傾向にあり、食品関連事業者が売上を維持・拡大していくためには首都圏等の市場開拓が必要となります。しかし、多くの事業者はその市場で勝ち抜く販売力や経験等が十分とは言い難い状況にあります。

そこで、首都圏の駅ナカ等で一坪ショップ事業を展開し豊富な販売実績を有する株式会社生産者直売のれん会(東京都)の全面的な協力により、自社商品の魅力を最大限にアピールし販売に繋がるノウハウの蓄積を図ることを目的に、汐留駅と新橋駅をつなぐ通路内で、通勤客を主なターゲットとしたテスト販売を実施し、県内各地から13事業者が出店しました。

なお、今後は、今回のテスト販売による売上結果やお客様の反応等に関する情報をレポートとして取りまとめた上で各事業者にフィードバックし、商品やPOPの改良など販売力の強化に結びつけていくこととしています。



〔販促用ポスターの一部〕



〔陳列商品の様子〕



新理事長紹介

役員改選により、下記の方が新しく理事長に選出されましたので、ご紹介します。

秋田県セメント卸協同組合 (秋田市)

理事長 田口 清光さん

組合員名：山二建設資材株式会社
 役 職：代表取締役社長
 改 選 日：平成27年11月24日

— 会員組合の皆様へ —

本コーナーでは、会員組合の理事長交代について紹介しております。
 今後、新しい理事長が選出された場合は、本会企画広報課 (☎018-863-8701) までお知らせ下さい。
 併せて、組合活動の様子やイベント開催等の情報も多数お寄せ下さい。

新設組合紹介

協同組合大湯温泉観光協会

～観光交流人口の増加と地域の賑わい創出を目指す～



八重樫學理事長

【組合の紹介・PR】 これまで任意組織である大湯温泉観光協会として、地域イベントを中心とした観光振興のほか、鹿角市より委託を受け「大湯温泉総合振興プラザ」の維持管理を行ってきました。

そのような中、鹿角市が推進する大湯地区観光拠点施設の整備事業を受け、当協会が核となり、地域の関係団体や住民等と協力して当該観光拠点施設の指定管理者を受託することを目的に法人化することとし、温泉を活用した施設や農産物の加工・直売を行う施設、定期市日を催す商業施設など、農・商・工・観の連携による総合的振興拠点の整備に取り組み、地域の賑わい創出を図るため、前身の大湯温泉観光協会を発展させ、協同組合大湯温泉観光協会を設立しました。

【理事長から一言】

大湯温泉は、開湯800年を越えてなお豊富な温泉を有し、国立公園である十和田湖の観光拠点として、発展してきた歴史と文化が息づく温泉郷です。

近年は、鹿角市も人口減少や少子高齢化といった大きな課題を抱えている中で、観光をはじめとする交流人口の増加を図ることが、地域活性化に向けた重要な課題の一つと考えられています。

当組合も、関係団体や住民等と協力して地元の賑わい創出を図りたいと考えており、より一層、魅力ある大湯温泉郷を全国に発信していくため、組合員一丸となって地域を盛り立てていきたいと考えています。

- 所在地 鹿角市十和田大湯字中田23番地3
- 代表理事 八重樫 學
- 出資金 1,560,000円
- 組合員数 37名
- 主な事業 観光振興並びに地域活性化に関する計画策定・調査研究、観光関連施設の維持管理
- 成立年月日 平成27年11月11日

